

# 動物公園・ボランティアとの協働による巨大カボチャの栽培・展示とイベントなどの活用について

磯部 実、西本昭作

## はじめに

平成23年度サマーフェア・平成23年7月16日（土）～8月28日（日）の期間中、‘巨大’をテーマに飼料用巨大カボチャ（品種名：アトランチック・ジャイアント）の栽培・展示に取り組み、収穫後10月の秋のグリーンフェアの装飾や12月の安佐動物公園の冬至イベントに活用した。

さらに特徴ある食用カボチャを数品種栽培し、収穫した果実は大温室前にミニ展示コーナーを設置し、巨大カボチャとともに比較展示した。

## 準備作業

栽培・展示場所はこれまでどおり大温室前のワシントンヤシモドキ並木の樹間にした。土づくりのため、3月上旬に一株当たり直径約1.5m深さ約50cmの穴を掘り、安佐動物公園より提供してもらった動物堆肥60ℓ、パーク堆肥20ℓ、油かす5kg、熔リン200g、苦土石灰200gをすき込んで植え床とした。

5月上旬、植え床1か所当たり基肥として有機入り粒状複合ペレックス（8-8-8-1）を120g施用した。

種子は最低温度20℃（スイレン温室）で4月16日（以降4/16のように表記）には種し、途中一回5号鉢へ鉢増し、5/14本葉5～6枚の苗を植え床へ定植した。

定植後、雨による泥はねを防ぐために苗株元周辺には藁を敷き、雑草の防止と蔓伸張を助けるために剪定チップ（大温室植物の剪定チップ）を周辺の広い範囲に敷きつめた。

## 栽培管理・生育状況

活着後、親蔓を摘心して子蔓が4～5本伸び始めた頃、生育のよい子蔓を1株に2本残し、それぞれ20節程度を目途に交配・着果させ、果実が順調に肥大しているものを残し子蔓1本1果に制限した。

追肥として6/16、7/3、7/25にペレックスまたは全農肥料「追肥これだけ」を1株当たり100g施用した。

薬剤散布は、5/16、5/26、6/15、7/11の4回行った。7月8日梅雨明け以降、7月中下旬、株元の老化葉にうどんこ病が発生したので、その部分のみ切除したがコナジラミの発生は例年より少

ななかったので、薬剤散布は行わなかった。

着果後は急激に肥大を始め、盛期には直径が1日当たり2cmずつ増加し、7/20には最大の果実で直径45cmになった。果実が大きくなるにつれて蔓を持ち上げて裂ける恐れがあるため、早めに果実の元の蔓を持ち上げて余裕をもたせておいた。

また、7月以降は人工交配しなくても着果し始めたので余分な果実は早めに摘果した。果皮は生育中クリーム色だが、成熟すると朱色のきれいな色になった。8月中旬にはほとんど成長は休止した。9月中旬には枯れ葉や枯れた蔓が目立ち始めたので切除し、9月下旬には果実は蔓から切除した。10/4には大きい果実5個の重量等を計測した（表参照）

## 入園者への対応

サマーフェア期間中毎日開催されたスタンプラリーのポイントとして巨大カボチャ植栽・展示場所近くにスタンプ台が設置されたので、多くの入園者に巨大カボチャの栽培状況をアピールすることができた（写真1）。

秋のグリーンフェア期間中は、収穫した巨大カボチャ3個をグリーンフェア実行委員会製作のハロウィンをテーマにした撮影コーナーに展示し（写真2）、その後大温室玄関前にカボチャ品種ミニ展示コーナーを設け、食用カボチャも含め4～5種を展示した（写真3）。

安佐動物公園では冬至企画として、12/23（祝）に本園から栽培・展示後に提供した巨大カボチャや食用カボチャを動物に食べさせた。

## 課題とこれからの指針

巨大カボチャは、市販品種「アトランチック・ジャイアント」の種子を購入し栽培・展示したが、更なる展示効果を上げるためには、他の品種あるいは優秀な系統の導入が必要であろう。

現在のところ栽培と展示両方の適地と考えられる熱帯スイレン温室南側のヤシの並木の樹間空き地に5年以上連作しているので、うどんこ病の発生がみられたり果実の肥大が悪いなど連作障害が見受けられ、他の適地の選択が必要であろう。

ただ現在の限られた場所で出来るだけ大きい果実を結実させるためには、まず株づくりと考え、そのために土づくりに重点を置いた。さらに生育中には伸長する蔓の各節から脇芽が多く発生し、繁茂しすぎるので随時芽かきを行い着果蔓を長く伸ばすようにした。伸びた蔓の各節から発根するのでそれも丁寧に扱い、株全体の勢いを維

持することが大切である。通常、カボチャはあまり肥料をやらないが、株を育てるためには定期的に追肥を施用する必要があるが、やりすぎても蔓ボケとなり着果が悪くなるので、施用時期と施用量の加減が重要である。

今回20節前後で交配・着果させたが、まだその時点では茎葉が十分育っていなかったため、もう少し着果節位を上げた方がよいと思われる。

今年はサマーフェアのスタンプラリーポイント以外にもグリーンフェアの装飾や動物公園のイベントなどに有効に活用できたので、今後さらに活用機会を増やし、多くの人にカボチャを通して植物の面白さを知ってもらいたいと考える。



写真2. 秋のグリーンフェアでのハロウィン撮影コーナー

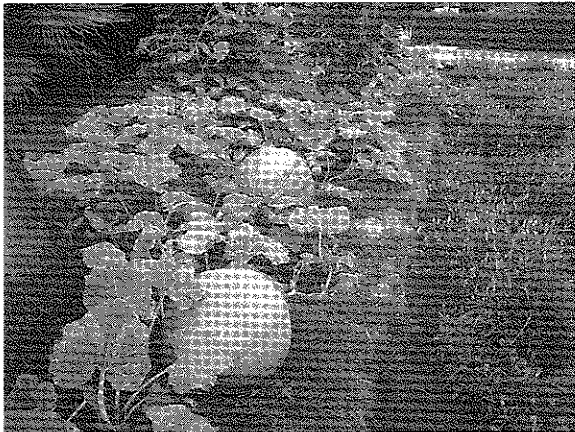


写真1. 巨大カボチャ栽培・展示状況

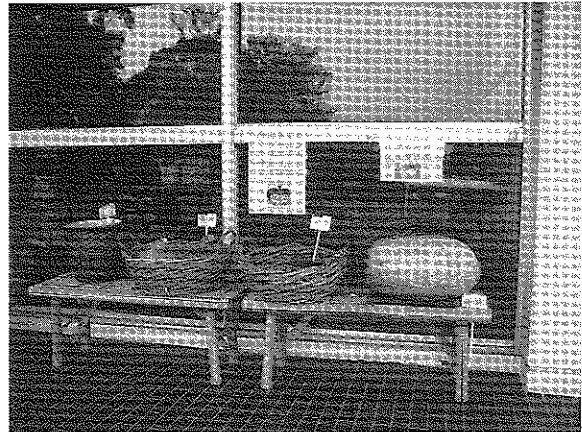


写真3. カボチャ品種ミニコーナー

表. 巨大カボチャ計測表 品種：アトランチック・ジャイアント

番号(重さ順)	直径×長さ (cm)	胴回り長 (cm)	重さ (kg)	色彩、形
1	50 × 34	160	33	オレンジ、カボチャ形
2	45 × 41	131	25	薄オレンジグリーン、カボチャ形
3	35 × 46.5	100	20	オレンジ、卵形
4	31 × 56	95	18	オレンジ、ヒョウタン形
5	39 × 40	125	15.5	オレンジ、ウリ形

直径胴回りなど 9月1日計測 重量10月4日計測